

DM283

19



78W11502

池K37



DM283
19

農家經濟調査

ハシガキ

一 本調査ハ農村ニ於ケル價格差傾向ノ推知ト其ノ増幅カ農村特ニ農業生産力ニ及ホセル影響ヲ可及的鮮明ナラシメムコトヲ目的トシテ企圖セルモノテアル

一 本調査ハ昭和十五年一月二十二日ヨリ二月三日迄綏化縣下(杏山堡蔡家窩堡)ニ於テ行ハレタ農業生産機構動態調査ノ補修調査ニ際シ附加的ニ爲サレタモノテ時間的ノ餘裕モ少ク又準備ニモ缺クルトコロアリ從テ不完全ナ點多々アルケレトモ敢テ一文ヲ草シタ次第參考トモナレハ幸甚テアル

一 本調査報告ニ於ケル意見、批判等アリトセハ夫レハ凡テ擔當者ノ責任ニシテ調査室ノ意向テナイコトヲ念ノ爲ニ斷ツテ置ク

一 本調査ニ於ケル地積ノ單位响數ハ大畝、石數ハ舊石テアル
擔當者 新京支社調査室 梶原 子 治

78W11502

ハシガキ

目次

一	調査屯及農家ノ概況	三頁
二	自然的災害狀況ト收量	九頁
三	農産物ノ販賣狀況及價格低廉へノ對應狀況	一三頁
	(1) 販賣狀況ト手許在高	一三頁
	(2) 販賣量及價格	一五頁
	(3) 價格低廉ニ對スル處置	一八頁
四	農家ノ購買狀況及價格高騰へノ對應狀況	二二頁
	A 農家用購買品	二二頁
	(1) 購買ノ概要及價格	二二頁
	(2) 價格高騰ニ對スル處置	二四頁
	B 家計用購買品	二六頁
	(1) 購買ノ概要及價格	二六頁
	(2) 價格高騰ニ對スル處置	三一頁
五	雇傭労働者ノ需給及勞賃騰貴へノ對應狀況	三五頁
	(1) 雇傭労働者ノ需給	三五頁

緒言

今日ノ經濟社會ニ於テハ完全ナル自給自足經濟ハアリ得ナイ
多カレ少カレ流通經濟部面ニ接觸シ自給經濟部面ノミカラ生産力ヲ云々
スルコトハ最早許サレナイ即チ農家ハ自己ノ生産物ヲ販賣シテ金ニ換ヘ
夫レヲ以テ必需品ノ購入ニ當テルノテアルカ貨幣價值ノ變動ニ依リテ農
家ノ販賣收入ハ固ヨリ生産用品、家計用品ノ購入量ニ多少ヲ生シ延イテ
ハ夫レカ從來ノ再生産過程ニ變化ヲ及ホスニ至ル
而シテ現時局下ニ於ケル急激ナル物價高騰、強力ナル配給價格統制ノ影
響トシテ第一ニ考慮サルヘキ問題ハ農業生産力ニ關スル問題テアル固ヨ
リ本質的ニハ生産諸要素ノ量的把握ニ依テ此ノ間ノ事情ノ鮮明ヲ期セナ
ケレハナラナイカ之ハ暫ク置キ我々ハ價格關係ノ變化ト謂フ外部經濟關
係ノ變化ニ依テ受クル諸影響ヲ考察スルコトニスル即チ農家カ販賣スル
物品ノ價格傾向ト農家カ購入スル物品ノ價格傾向ヲ知悉シ其ノ價格差ノ
増幅カ農業再生産過程ニ如何ナル影響ヲ及ホスカニ就テテアル詳言スレ
ハ價格差ノ増幅ニ依リ從來ノ農業經營形態ヲ維持スルニハ如何ニ對處ス
ヘキカ、如何ニ變化ヲ餘儀ナクサレルカ又農家ノ生活ニ及ホシタ影響並
夫レヘノ對應狀況、更ニ然ラハ斯クノ如キ事態カ階層別ニハ如何ナル差
異ヲ有スルカ？等ノ諸點ニシテ之等ノ線ニ沿ツテ問題ヲ理解スルコトカ

重要テアル

然シ乍ラ斯カル方途ニ於ケル調査研究ニハ中央市場ニ於ケル物價指數等
ニ依ル方法カアルケレトモ我々ハ之ヲ採ラス
其ノ理由ハ中央市場ニ於ケル價格差ヲ以テ地方ニ於ケル價格差ト爲ス不
都合ヲ一應サケンカ爲テアルサリ乍ラ如上ノ關係ヲ嚴密ニ調査スルカ爲
ニハ深ク農家ノ經濟ヲ分析シ販賣品及購買品買格カ農家ノ收支ニ對シテ
有スル夫々ノ重要度ヲ加味シ之ト價格關係變動トノ聯關ヲ觀察セル結果
ニ依ラナケレハナラナイカ今ハ之ヲ爲シ得ス特定部落ニ於ケル富農、中
農、雇農ヲ適宜選擇シテ聽取調査ヲ行ヒ其ノ結果ヨリシテ推論セサルヲ
得ナイ

- 先ツ調査屯及調査農家ノ概要ヲ示シ康德六年度北滿地方（綏化縣）ニ於
ケル自然的災害ヲ一瞥シタル後首途ニ入り便宜上
- 一 農産物ノ販賣狀況及價格低廉ヘノ對應狀況
 - 二 農家ノ購買狀況及價格高騰ヘノ對應狀況
 - 三 雇傭勞働者ノ需給及勞賃騰貴ヘノ對應狀況
 - 四 物價ノ變動ト農家經濟
 - 五 農業經營ノ動向
 - 六 土地及小作關係ヘノ影響

ノ六項目ニ分カチ價格差ノ増幅カ農村ニ及ホセル影響ヲ可及的鮮明ナラシメヤウト思フ勿論本報告ハ限ラレタ地域ノ限ラレタ農家ノ簡單ナ調査報告テアルカラ之ヲ以テ全般的ニ推論スルコトハ疑ヒナキヲ得ナイカ然シ此ノ限ラレタ分析ノ内容ニハ重要ナ因子ヲ含ンテ居ル取ヘテ農業生産力ノ停滯、農民層ノ分化促進様相ノ解明ト之カ解決ヘノ一示唆トシ將來ヨリ完全ニ爲サレルテアラウ本問題考察ノ資ニ供スル所以テアル

一 調査屯及農家ノ概要

1 屯名

綏化縣彥隣村杏山堡、(附)同縣蔡家窩堡

2 位置

本屯ハ綏社線與福驛ノ東方約六滿里ノ地端平ラカナ丘狀ヲ爲セル廣闊ナル地ニ三聚落ヲ形造リテ在リ綏化縣ヨリ興福驛迄ハ汽車ニテ約三十分興福驛ヨリ徒歩ニテ約一時間ヲ要スル尙蔡家窩堡ハ縣城ヨリ一八滿里ノ地ニ位ス

3

屯及農家概況(康德六年度)

4 戶數五九戶、内

經營農家

一三戶

雜業農

四二戶

四戶

人口 四〇七人 内男 二〇〇人、女 二〇七人

土地	所有地	自作地	小作地	耕作地	貸付地
八一四・七	二六八・七	一七一・二	四三九・九	五四六・〇	四四三
畝	畝	畝	畝	畝	畝
(内屯外)	()	()	()	()	()
四六〇	一七〇	二〇	一九	一三	五
畝	畝	畝	畝	畝	畝
一	一	一	一	一	一
戸	戸	戸	戸	戸	戸

無所有	二戸	一〇畝未滿	六戸
一〇畝未滿	五戸	一〇一三〇	一戸
二〇一三〇	三戸	三〇一五〇	二戸
三〇一五〇	二戸	五〇一〇〇	三戸
五〇以上	一戸	一〇一五〇	一戸
計	一三戸	計	一三戸

犬家畜 一 一四頭
 内一五〇 飼經營家ノ所有

牛 一〇頭
 馬 九頭
 騾 二頭
 一〇頭

ナシ
 六二頭
 ナシ

ト 經營農家（一三戸）ノ概況

計	經營農家テ日工ニ出ルモノ	年工		屯内	屯外	計
		日工	年工			
四七人	二人	二二人	二三人			
一七人		一人	一六人			
六四人	二人	二三人	三九人			

經營農家ノ雇傭年工數 四六人（内屯外居住者二〇人）
雇農ノ被傭狀況

大農具	大車	犁	碾子	磨	壞耗
一五〇	一二	三七	七	五	一七
内	内	内	内	内	内
一五〇	一二	三七	七	五	一七

大農具

内一五〇 内經營農家ノ所有

一五
一
一
六

家 族	經營形態	家 族	男	女	計	雇傭年工	地 土			家 號
							計	小作地	自作地	
1	地、自	10	10	18	28	18 (1P)	1000	0	1000	1
2	小、自	11	11	22	33	6	1000	1000	2000	2
3	自、小	7	7	14	14	5 (1P)	1000	0	1000	3
4	小作地	9	9	18	34	6	1000	0	1000	4
5	自、小	5	5	10	11	3 (1)	1000	0	1000	5
6	自、小	7	7	14	12	4	1000	0	1000	6
7	自、小	2	2	4	5	3 (1)	1000	0	1000	7
8	小作地	3	3	6	4	1 (1)	1000	0	1000	8
9	自作地	1	1	2	6	5	1000	0	1000	9
10	地、自	2	2	4	4	0	1000	0	1000	10
11	自作地	3	3	6	7	0	1000	0	1000	11
12	地、自	5	5	10	10	0	1000	0	1000	12
13	自作地	1	1	2	3	0	1000	0	1000	13
計		66	66	132	152	44 (110)	19100 (1900)	0	19100 (1900)	

計	物 作 付 作						具 農 大				家 大				
	其他	小麥	谷子	高粱	大豆	場	磨	碾子	犁丈	大車	計	騾	驢	馬	牛
一五〇	三	五〇	七	三〇	六〇	六	一	一	一五	五	六二			六二	頭
六六〇	八〇	一七	八〇	八	二五	二	一	一	四	一	七	五		二	
六〇	一〇	一五	一〇	五	二〇	二	一	一	四	二	一四	一		六	七
五八	八	一五	一〇	一〇	一五	二			三	一	一〇	二	二	六	
三五	三	一〇	三	五	二	二	一	一	三	一	六	二		四	
三〇	四	六	四	四	二	一		一	一	一	六			六	
一四〇	一〇	三	三	三	四	一	一	一	二	一	五			五	
六	〇		一	一	三				一	一	三				三
四〇	一	一	〇	二											
五〇	〇	五													
三〇	〇	一		一	〇			一							
五	二	三				一	一	二		一				一	
二〇	〇	二													
四三九	四一八	四八八	六七〇	一五三八	一七	五	七	三七	一一	一四	一〇	二	九二	一〇	

備考

括弧ハ屯外

本屯ニ於ケル經營農家一三戸ノ概要ハ右ノ如クテアルカ我々ハ此ノ中ヨリ左記三農家ヲ選擇シ之ヲ中心トシテ考察ノ步ヲ全體トノ聯關ノ下ニ進メルコトトシタ從テ以下富農、中農、雇農ト稱スルハ別ニ斷リナキ限リ本屯ノ本農家ヲ指稱スル

農家番號(1) 富農(地主、自作、所有面積六七〇晌經營面積一五〇晌)

(2) 中農(自作兼小作、經營面積六六。五晌、内小作地面積五〇晌)

(3) 雇農(年工、打頭的、戸主打頭的、現金五〇圓、現物大豆一晌、谷子〇。五晌、長男、半拉子、現金一一〇圓)

尙蔡家窩堡ニテ副次的ニ聽取セル農家八一五〇晌ヲ所有經營スル富農テアル

二 自然的災害狀況ト收量

康德六年度綏化縣下ニ於ケル自然的災害（特ニ水害、旱害）ニ就キ一瞥
 スルニ六月下旬ヨリ降雨期ニ入り七月上旬迄降り續キ縣内各河川殊ニ
 呼蘭河ノ増水甚シク爲ニ沿線ノ耕地ハ浸水シ其ノ後一時回復シタルモ
 再ヒ天候不順トナリ數週間ニ亘ツテ農作物ハ災害ノ最中ニ置カレタ
 八月九日協和會地區本部ノ提唱ニ依リ水害對策委員會カ開催サレタ當
 日迄ニ調査報告サレタ狀況ハ次表ノ如ク第一回調査七保一村ノミテ被
 害面積二九〇〇〇晌ニシテ被害地區全耕地面積ノ約五〇%ニ及ヒ罹災
 民モ相當多ク從テ救濟ヲ要スル農家モ亦尠クナカッタ。又八月下旬協
 和會分會ニ於テ十保六十甲ニ就テ調査セル結果ニ依レハ大豆ノ被害面
 積ハ九〇〇〇晌、小麥ハ七八〇〇晌餘テ相當廣範圍ニ亘ツテ居ル。而
 シテ直接水害ヲ受ケナクトモ天候不順即チ開花結實期ニ於ケル雨天ノ
 爲或ハ結實中ニ多少ノ雨量ヲ要スルニモ拘ラス旱天ノ爲不作ニ陥ツタ
 様ナ場合モ尠クナイ、前者ハ小麥、後者ハ大豆カ之テアル

(第一表)

康德六年度綏化縣下水害耕地面積

地區別	被害地區全耕地面積	被害面積	被害地區全人口	罹災民	要救濟民	備考
富春保	四五〇〇	三〇〇〇	未詳	未詳	未詳	
蔡家堡	七一〇〇	四三〇〇	一〇、九七九	五六六九	二八三五	
永安保	二、二〇〇	六九〇〇	九、一八三	八〇三三	三七九五	
秦家保	八、八六八	四〇一〇	一、二〇八〇	五〇五五	二七九七	
四方臺保	未詳	一、〇〇〇	五〇二四	未詳	未詳	
雙河保	八、五五四	五九〇〇	一〇、二〇九	七、一八一	二、三二〇	
張維保	七、三七〇	三、三〇〇	未詳	未詳	未詳	
安全農村	一、四八五	八〇〇	四、四四六	二、七七	二七七	鮮農部落
計	五九、〇七八	二九、二一〇	四七、四七四 四、四六	二五、九三八 二、七七	一、七四七 二、二七	

(第二表)

康德六年度綏化縣下水害作物面積表

協和會 分會別	保甲 數	大豆 數	小麥 數	谷子 數	高粱 數	包米 數	大麥 數	稗子 數	亞 麻 數	計
永安鎮	三	10	1000	570	688	570				4123
張維鎮	一	五	1000	232	595	356	275	201		3767
雙河鎮	三	三〇	5161	2705.7	1428.8	1373.3	783.5	449.1		16526
津河鎮	三	一五	1519	732	475.3	440	57	34	7	4597
計	一〇	六〇	9005	7808.7	4602.7	3140.1	1115.5	784.1	7	29014

如斯事情カラシテ本年度ニ於ケル各種農作物ノ响當收量ハ例年ニ比ヘテ
低下シ可成リノ減收トナツテ居ル。協和會分會カ綏化縣城附近ノ綏化保
内ノ三屯ニ就テ收穫後十一月調査セル結果ニ依ルト次ノ如クテアル
(第三表)

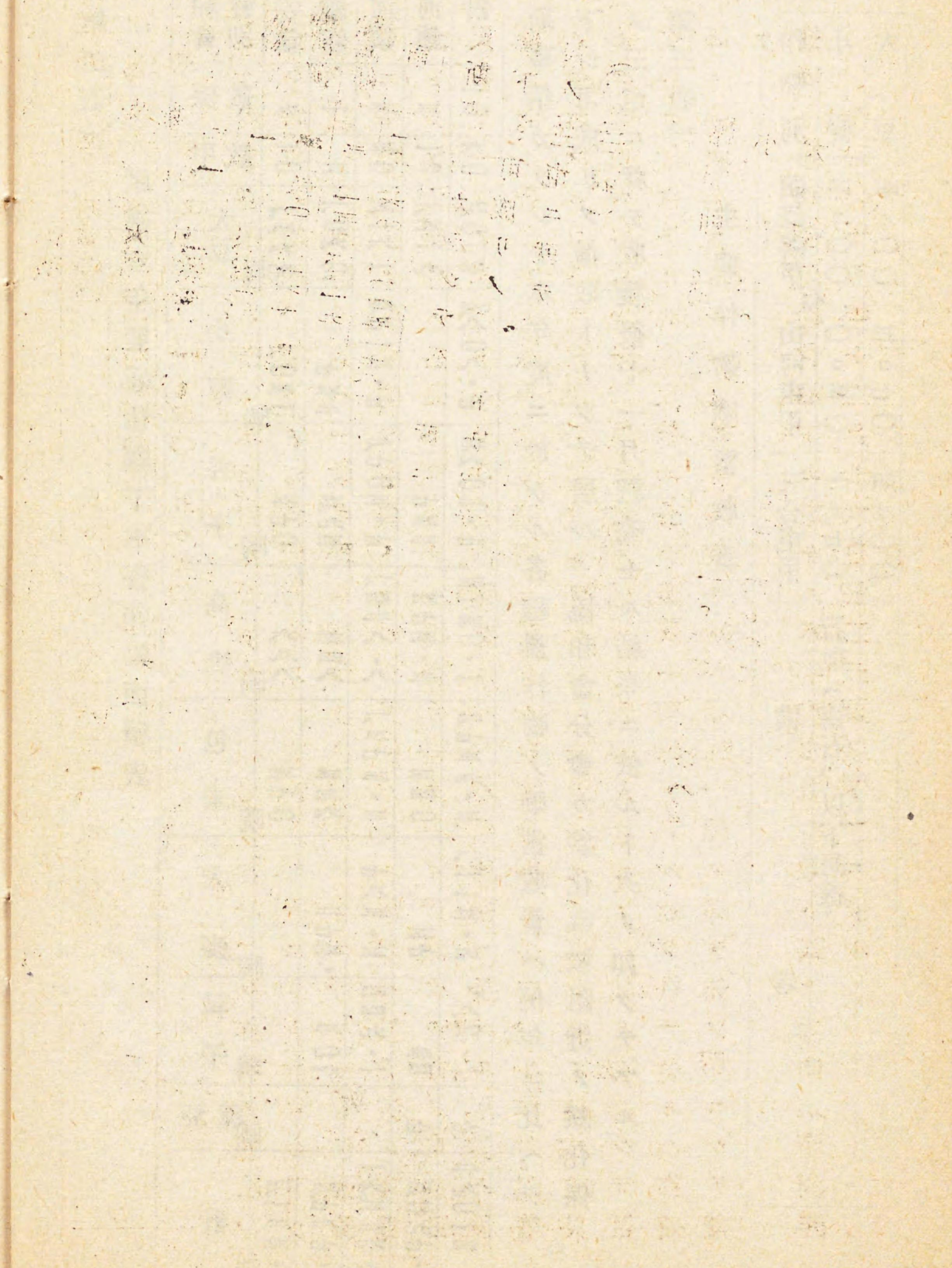
主要作物响當收量

作物別	頭道溝甲 石	山河屯甲	三合屯甲	備考
大豆	4000	3070	4000	石數ハ舊石、以下同様
小麥	2000	0500	1070	

茲ニ於テ各機關ハ直ニ水害對策委員會ヲ組織シ税金、小作料ノ免除、貸金回收ノ延期、種子ノ無料配布等ノ諸方策ヲ議決スルトコロカアツタ。翻ツテ水害地帯ハ一般ニ雜草繁茂多ク、次年度ニ於ケル春耕及除草ニ平年以上ノ勞働力ヲ必要トスルシ又浸水セル耕地ハ粘土質ノ爲塊土トナツテ耕作ノ困難不能トナル場合カ尠クナイ。斯クテ此ノ自然的災害ヲ一ツノ楔機トシテ作付面積ノ減少、水害地帯ニ於ケル雇農ノ移動ニ依ル勞働力ノ減少、端境期ニ於ケル自家食料ノ缺亡、小作問題等ノ生起スルコトカ當然考慮サレナケレハナラナイ。從テ此ノ自然的災害ニ因由スル收量減、農家收入減ハ一般購入物價ノ激騰ト聯關シテ否夫レニ拍車ヲカケル意味ニ於テ重要ト要素テアル故ヲ以テ吾々ハ物價高ノ農村ニ及ホセル影響ヲ考察スルニ際シ、此ノ點ヲ先ツ明ニシテ置ク

備考 泉直平氏綏化縣下ニ於ケル本年度水害對策ト其ノ動向（滿洲評論昭和十四年十二月十六日號二五頁以下）ニ依ル

谷	子	四〇〇〇	五〇〇〇	石數ハ舊石、以下同様
包	米	五・五〇	二〇〇〇	
高	梁	五〇五〇	一・五〇	五〇五〇



増 減	富		農		中		農		備考
	大豆	高粱	小麥	大豆	高粱	小麥			
	一五五石	三〇〇石	一〇〇石	一〇石	一五石	八石			
	二四四 (二八九)	三〇〇 (二〇〇)	一〇〇 (六〇)	二五 (ナシ)	六 (ナシ)	八 (ナシ)			
	八九			一五	△九				

三 農産物ノ販賣狀況及價格低廉ヘノ對應狀況
 (1) 販賣狀況ト手許在高
 農産物特ニ大豆ノ出廻リカ例年ニ比シ著シク不振ナル現状ニ鑑ミ農家ノ手許在高ハ相當多量ニ上ルコトカ一般ニ豫想セラレテ居タノテアルカ事實ハシカシ單純ナラスヨリ深刻ナル様相ヲ現ハンテ居ル
 (第四表)

階層別主要農産物ノ手許在高

先ツ階層別ニ考察スル。富農ニ在リテハ第四表ニ示シタ如ク高粱、小麥ハ前年ト同様ナルモ大豆ハ前年ニ比シ八九石ノ増加ヲ見セ而モ其ノ中ノ販賣可能量ハ大豆一八九石、高粱一〇〇石、小麥六

備考 収入ノ部ニ前年度ヨリノ繰越高ヲ記入シナケレハナラナイカ
未詳ノ爲之ヲ除ク

然ルニ中農ニ於テハ大豆ノ手持量ハ前年ニ比シ多ク、高粱ハ減少シ
テ居ルカ此ノ手持量ハ自家消費ニ充テル分ニシテ販賣可能量ハ殆ト
ナイ。即チ安キヲ意識シツツモ例年ト同時期ニカ否寧ロヨリ早目ニ

大豆	高粱	小麥	收			入			支			出		
			生産高	屯外ヨリノ小作料	石	計	販賣	次年度自家用	屯外へノ勞賃	屯外へノ小作料	計	手持販賣可能量		
六七七・五	四三三・〇	二六〇・四	一九一・五	二六〇・八	四〇〇・〇	一八一・七	七三三・一	三〇・八	六七四・九	二一三・九				
			一九・八	六九三・八	五・四	二六三・七	七三・一	六七四・九	二一三・九					
			八八八・八	三〇五・八	三〇五・八	二六三・一	七三・一	六七四・九	二一三・九					
			四七九・〇	一六一・七	一六一・七	七三三・一	三〇・八	六七四・九	二一三・九					
			九二・〇	七三三・一	七三三・一	三〇・八	六七四・九	二一三・九	二一三・九					
			七三・一	三〇・八	三〇・八	六七四・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九					
			七三・一	三〇・八	三〇・八	六七四・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九					
			三〇・八	六七四・九	六七四・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九					
			二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九					
			二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九					
			二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九					
			二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九	二一三・九					

(第五表)

屯ニ於ケル主要農産物ノ手持販賣可能量

○石ノ餘裕カアル。之ヲ屯全體ノ主要農産物販賣可能手許在高ト對
比スレハ何レモ其ノ九〇%迄ハ本富農ノ手許ニ貯藏セラレテ居ル
第五表カ之テアル

(2)

販賣シ終ツテ居ルノテアル。又富農ニ在リテハ、値段カ上レハ賣ルシ
 目シ之以上騰貴シナイト決レハ賣リモスレハ又飼料ニモ供ス」ト謂
 フノニ對シ中農以下ニ在リテハ負債ノ償却或ハ必需品ノ購入ニ差支
 ヲ生スル故ニ成ルヘク早ク換金スルノテアル。更ニ雇農（年工）等
 ニ在リテハ現物質銀ノ中大豆ノ八〇・九〇％ハ直ニ販賣シテ目前ノ
 窮迫セル生活用品（食料、被服等）購入ノ資ニ供シ辛シテ生活ヲ續
 ケサルヲ得ナイ實狀テ其ノ間階層ヲ異ニスルニ從ヒ甚シキ經庭アル
 ヲ知ル

以上ハ杏山堡ニ於ケル狀況テアルカ蔡家窩堡ニ於ケル富農ニ就テ聽
 取スルニ其ノ間條件ノ差ハアリトシテモ現在手持量中ニ販賣可能量
 ハ殆トナク既ニ販賣シ終ツテ居ル。從テ屯内他ノ中小農家ニ於ケル
 事情モ亦杏山堡ニ於ケル夫レト大同小異テアルコト謂フ迄モナイ

農産物ノ販賣ニ依ル農家ノ現金收入ヲ檢討スルニ第六表ニ於ケル如
 ク富農ハ手許ニ相當豊富ニ貯藏シ前年ニ比較スルト大豆、高粱ハ幾
 分増加シ小麥ハ減少シテ居ル。規格別ノ販賣單價ハ不明ナルモ大體
 前ニ比ヘテ低位ニアル。之ハ本年度ノ不順ナル天候ニ因ル品質ノ低
 下、縣城ニ於ケル價格公定ヲ繞ル奇怪ナル事情、農産物價格公定ノ

農 量ヲ加算 セル増減	富		數量 石	價額 圓	單價 圓	數量 石	價額 圓	單價 圓	數量 石	價額 圓	單價 圓	合計 (價額) 圓
	康徳五年	康徳六年 (外ニ販 賣可能量)										
八九	二五〇	二五〇	二五〇	六三〇〇	一八・〇〇	三〇〇	五二〇〇	一七・〇〇	一五〇	四五〇〇	三〇・〇〇	一五九〇〇
七二四	四〇〇〇	三〇〇〇	△三〇〇	一六・〇〇	一・〇〇	四〇〇	一八〇〇	一八・〇〇	六〇〇	一八〇〇	三〇・〇〇	一〇三〇〇
五〇	二五〇	一〇〇	△一五〇	一・〇〇	一・〇〇	一〇〇	一八〇〇	一八・〇〇	六〇〇	一八〇〇	三〇・〇〇	一〇三〇〇
一二〇〇	五二〇〇	四〇〇〇	△一二〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一〇〇	一八〇〇	一八・〇〇	六〇〇	一八〇〇	三〇・〇〇	一〇三〇〇
△三〇〇	六〇〇	六〇〇	△九〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一〇〇	一八〇〇	一八・〇〇	六〇〇	一八〇〇	三〇・〇〇	一〇三〇〇
△九〇〇	一八〇〇	一八〇〇	△七〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一〇〇	一八〇〇	一八・〇〇	六〇〇	一八〇〇	三〇・〇〇	一〇三〇〇
一五二四	一〇三〇〇	六六二四	△五六〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一〇〇	一八〇〇	一八・〇〇	六〇〇	一八〇〇	三〇・〇〇	一〇三〇〇

(第六表)

主要農産物ノ販賣量及價額

不當等ニ基因スル。而シテ總販賣量ニ於テハ單價ハ安キモ數量幾分多キ爲前年ニ比ヘ七%餘ノ増加トナツテ居ル。之ニ反シ中農ニ在リテハ販賣量ノ單價ノ何レニ於テモ前年ニ比ヘテ低ク從テ販賣收入ハ二〇%餘ノ減少ヲ示シテ居ル。參考迄ニ三〇响經營ノ自作農家ニ就キ响當農産物販賣收入ヲ算出シテ見ルト康徳五年總額八三八圓、响當二八圓弱ニ對シ本年ハ總額六八九圓、响當二三圓弱ニシテ約三〇%減少シテ居ル

作物名	作付面積 町	收量 石	販賣量 石	單價 圓	價額 圓	响當販賣 入	販賣量 %	備考
大豆	一二	四八	二三	一六	三六八	三〇〇六七	四八% 九	
高粱	四	二四	四	一八	七二	一八〇〇〇	一六〇六	
小麥	六	一二	六	二八	二二四	三七〇三三	三〇〇〇	
燕麥	〇・五	二・五	一〇		二五	五〇	〇〇〇〇	
粘谷子	七・五	一八						
糜子	一・五	一・五						

(第七表)

自作農家ニ於ケル响當農産物販賣收入

農 增 減	中 康德五年		數量 石	價 額 圓	單 價 圓	數量 石	價 額 圓	單 價 圓	麥 價 額 圓	甜 菜 價 額 圓	亞 麻 價 額 圓	合 計 (價額) 圓
	康德六年	三〇										
△五	三五	三五	三五	五四〇	一八圓	二五	八五〇	三四			三五	一、四二五
△九〇	四五〇	(二 等)	(一 五 等)	二〇	六二〇	二〇	六二〇	三一	五六			一、一二六
△三	(三 等)	(二 等)	(三 等)	△三	五六	△三五	△三三〇	△三	五六			△二九九

年度	合計
(康徳六年度)	三〇
(康徳五年度)	三〇
	六八九
	二二、九七
	八三七
	二七〇九三

尙販賣作物ノ種類ハ富農ニ於テハ少ク中小農ニ於テハ概シテ多ク而モ年ニ依リテ異ナルコト多ク從テ單的ニハ生産技術ノ向上ハ期シ得ラレス收量ノ不同、品質不揃等ノ事情ハ勢ヒ當該作物ニ對スル嫌惡ノ狀ヲ増サシメ延テハ農家經濟ニ起伏ヲ生セシムルニ至ル

(3) 價格低廉ニ對スル處置

以上農家ノ階層別販賣狀況ニ就テ概説シタカ然ラハ農家ハ農産物ノ價格低廉ニ對シテ如何ナル方策ヲ採リツツアルカ？先ツ來年度ノ作付面積ヲ何ウ割當テルカ、又購買品價格高騰ニ對スル處置ト關聯シテ如何ニスルカ等ノ問題カ取り上ケラレル。茲テハ取り敢ヘス自給化ノ問題ニ就テ一言スル

從來家畜ノ飼料トシテ豆粕ヲ使用シテ居タノテアルカ豆粕ノ騰貴ト大豆ノ價格安トノ關係カラ大豆ノ販賣量ヲ減シ之ヲ飼料トシテ代用スル農家カ可成リ多クナツタ。即チ富農ニ在リテハ豆粕ノ購入量ヲ

減シ中小農ニ在リテハ購入又ハ交換ヲ全然中止シ大豆ヲ以テ代用シ
ツツアル状態テアル

(第八表)

大豆、高粱ノ飼料化状況

増減	大豆		高粱		備考
	富農	中農	富農	中農	
康徳五年	二五石	石	二〇〇石	一六石	
康徳六年	三五	七	一八〇	一四	
増減	一〇	七	△二〇	△二	

又蔡家窩堡ニ於テハ從來放置シアリシ農具ヲ使用シテ小麥粉ノ自家
製造ヲ始メ之ニ依リ其ノ購入量ヲ節減シテ居ル富農ノ實例モ見受ケ
ラレタ。然シ又斯カル手段ヲ所有セサル農家ニ於テハ小麥粉ノ自家
製造モ思フニ任セス自然高價ナ小麥粉ヲ購入シ若ハ夫レサヘモ手ニ
這入ラナイ様ナ事情モアリ自給化ト謂ツテモ自ラ彈力性ノ強弱カア
リ一概ニ謂フコトハ出來ナイ

以上要之農産物ノ價格安ノ下ニ於ケル農家ノ販賣狀況ハ富農ヲ除ク外殆
ト手持量ナク前年ト同時期カ或ハ早日ニ販賣シ終ツテ居ル様テアル。然
ルニモ拘ラス大豆等ノ出廻リ減少セル理由ハ減收、自家消費増、麻袋不
足、統制部面ノ凹凸等ト種々アルカ吾々ハ此ノ間ニ闇取引ノ行ハレテ居
ルコトノ多キヲ推察セサルヲ得ナイ即チ出廻リノ遅延ハ第一次生産者タ
ル農家ノ出荷滞リニアルト謂フヨリハ寧ロ糧棧、油坊業者等ノ操作ニ因
由スルコトカ固リ大ナルヤニ考ヘラレル。而シテ價格安ニ對スル農家ノ
處置トシテハ消費ノ轉換ニ依ル自給化、農産加工ニ依ル買控へ等ノ方向
ニ眼ヲ注キツツアリ斯カル事情カラ來年度ノ作付作物ノ種類、面積等ハ
相當變化スルモノト思ハレル

最後ニ農産物統制ニ關聯シテ如何ナル考ヘヲ有スルカ？ニ就テ農民カ雜
談的ニ語ツタ若干ノ事項ヲ次ニ列記シテ見ヤウ

- (1) 統制トハ「品物ヲ不足セシムル」カノ如ク感シテ居ル
- (2) 買フ物ハ高ク賣ル物ハ統制サレテ益安クナツタ
- (3) 生活用品等ノ配給不圓滑ナル爲闇相場ニ依リ高價ナ物ヲ買ハナケレ
ハナラナイ

(4) 割當ラレタ作物ノ不作ニ對シテハ何トカシテ貰ヒタイ

- (5) 合作社ヤ協和會等カ吾々ヲ集メテ話ヲサレテモ「何タカ難シクテ少シモ解ラナイ」
- (6) 勞賃支拂ノ爲借金セルモ「賣ル農産物ノ値カ安イノテ此ノ返濟時期ヲ少シ延期シテ貰ヒタイ」

四

A

農家ノ購買狀況及價格高騰ヘノ對應狀況

(1) 農家用購買品

農業經營ニ用ヒラレル生産手段ノ中農具ハ大農具ト小農具トニ依
 ツテ著シク異ナル殊ニ大農具ハ一度購入スレハ長年使用出來ルシ
 又修繕ヲ施セハ其ノ年限ヲ延長出來ル從テ毎年購入スル農具ノ價
 額ハ少ク鋤刀、鎌刀ノ如キニ過キナイ又農家テハ農具ノ自家製造
 モ相當アルシ日本内地ニ於ケル程ノ複雑サヲ有ツテ居ナイ此ノコ
 トハ富農ニ在リテモ亦中農ニ在リテモ大體軌ヲ一ツニシテ居ル只
 新シク大農具ヲ買ハサルヲ得ナイ場合ニハ事情ハ目ヲ異ナル
 次ニ豕畜ニ在リテモ買貨等ハ餘リ行ハレス僅ニ一例ヲ見タノミテ
 アル又飼料タル豆粕ハ大豆安ニ對スル價格高ノ爲前年ニ比シ購買
 數量ハ富農ニ在リテハ減少シ中農以下ハ全然中止シテ居ル狀態テ
 アル

ソコテ農具、豕畜、飼料等ノ主要アルモノニ就キ價格騰貴ノ様相
 ヲ見ルニ第九表ノ如ク農具ノ價格騰貴ハ最甚シク前年ニ比較シテ
 五〇%一〇〇%ノ激騰ヲ示シ役畜（成馬）二五%、飼料一四%
 ト夫々騰貴シテ居ル騰貴率ノ比較的少キ豆粕ニ在リテモ之ヲ大豆

Faint, illegible text or bleed-through from the reverse side of the page.

(2)

價格高騰ニ對スル處置

農業用品ノ供給ハ一般的ニハ不圓滑ヲ免レナイカ其ノ購入ハ上述ノ如ク比較的少ク又餘裕モ多カラス從テ價格ノ高騰モ差シ追ツタ窮狀ヲ未タ現ハシテハ居ナイ然シ之ヲ概括スレハ(一)購入數量ノ減少又ハ中止、即チ買控へ(二)大豆飼料化ニ依ル消費ノ轉換等ノ二方面カラ除クニ進ミツツアルヨウデアル

今飼料タル豆粕ノ購入手控へト大豆飼料化ノ模樣ニ就キ見ルニ第十表ノ如ク否山堡ニテハ富農ハ約二三%ノ買控へヲ行ヒ中農ハ全然購入ヲ中止シテ居ル又蔡家窩堡ノ富農ハ昨年大豆一〇石テ豆粕二五〇枚ト交換シ飼料ニ供シタルモ本年ハ全然中止シテ居ル

農家トシテハ大豆ヲ飼料ニ供スル場合ハ手數ヲ要シ出來待レハ豆粕ヲ使用シタイカ大豆安ノ爲ニ敢へテ不自由ヲ忍テ居ル譯テアル假ニ昨年通大豆一〇石ヲ持參シタトスレハ本年ハ二割減ノ二〇〇枚シカ得ラレナイ状態カラ推シテ右ノ事情ハ首肯スルニ疑クナイ

尙購入物價高ニ對シテハ買控へ消費ノ轉換等ニ依リ極力現金支出ヲ節減スルノテアルカ物ニ依ツテハ買ノ低下ノ爲ニヨリ以上ノ苦汁ヲ味ハサルヲ待ナイ故日ニ陷ルコトモ亦少クナイ

(第十表)

豆相ノ購入手控ヘト大豆ノ飼料化

増減	大豆		大豆		大豆	
	富	農	中	農	富農	中農
康徳五年	一、三〇〇枚	九一〇圓	八〇枚	五六圓	三五石	二五〇枚(大豆一〇石分)
康徳六年	一、〇〇〇	八〇〇				
増減	△三〇〇	△一二〇	△八〇	△五六	一〇	七△二五〇枚(大豆一〇石分)

備考

- 1 豆相價格(一枚) 康徳五年(七〇錢) 康徳六年(八〇錢)
- 2 大豆價格ハ自給品ナル爲不分明ナルモ販賣單價ニ依レハ康徳五年(一石一八圓) 康徳六年(一石一六圓) 見當テアル

B 家計用品購買品
 (1) 購買ノ概要及價格
 先ツ階層別ニ家計用品ノ購入高ヲ檢シテ見ヨウ
 (第十一表)

家計用品購入狀況

増減	富		中		雇農		富農		備考
	總額	内年紙	總額	内年紙	總額	内年紙	總額	内年紙	
康徳五年三〇〇〇圓	一〇〇〇圓	三〇〇圓	三〇〇圓	三〇圓不明	一、二八〇圓	九〇圓			
〃 六年四七〇〇	一二〇	三五〇	三五	一〇三	一、七八〇	一二〇			
増減	一七〇〇	二〇	五〇	五	五〇〇	三〇			
%	一五六・七一	二〇・〇一	一六・七一	一六・七	一四〇・〇一	一三三・三			

即チ富農ニ在リテハ家計費トシテ支出セル現金額ハ前年ニ比シテ五〇%餘ノ増加ヲ來タ。年紙ノ如キモ二〇%ノ増加ヲ見セテ居ル。然シ乍ラ中農ニ於ケル純對額ハ増加シテ居ルモ其ノ増加率ハ少イ。尙祭家高堡ニ於ケル富農ノ狀態モ概ネ前者ト大同小異テアル。以上ハ家計用品購買ノ總額ニ就テ見タノテアルカ今富農ト雇農ト

ニ就キ其ノ内容ヲ概スルニ第十二表ニ於ケル如ク富農ニアリテハ
 被服類ノ購入取多ク約半分ヲ占メテ居ルノニ對シ雇農ニ在リテハ
 食料ノ購入額カ半ハ以上ヲ占メ被服費カ夫レニ次テ多イ

(第十二表)

家計用品ノ購買内容

富農	雇農	食料費	被服費	其ノ他	計
五五・二%	四五・七%	三五・四%	九・四%	一〇〇・〇%	一〇〇・〇%
不	明	不	明	不	明

尙参考迄ニ本年度雇農ノ現金家計費ノ内容ヲ左ニ表示シテ置ク

備考	食料費		被服費					其他		合計	
	精穀子	包米	小麥	鹽	糸	棉花	衣服	マツ子	石油		年紙
豆ハ歟ノ飼料ニ供シ谷子ハ八〇%ヲ販賣シテ残ヲ自家食用ニ供ス	數	二石	一石	〇・二石	一〇〇斤	〇・五	四	一五袋	一〇斤		
	單價	四〇圓	一七	四〇	七錢	八圓	二	二〇錢	二〇錢		
	價額	八〇・〇〇圓	一七・〇〇	八・〇〇	七・〇〇	四・〇〇	八・〇〇	六〇・〇〇	二〇・〇〇	一〇・〇〇	二〇三・〇〇
	備考			(五一・二〇圓)	(五五・二%)		七二・〇〇圓 (三五・四%)		一九・〇〇圓 (九・四%)		一〇〇・〇%

(第十三表)

雇農ノ家計費内容(現金)

雇農ノ家計費内容(現金)

右ノ外ニ現物勞銀トシテ得タル谷子二石、大豆七斗カアル大

豆ハ歟ノ飼料ニ供シ谷子ハ八〇%ヲ販賣シテ残ヲ自家食用ニ供ス

次ニ家計用品ノ價格ニ就テ

(第十四表)

家計用品ノ價格

品目	單位	康徳五年	康徳六年	増減	%	備考
豚 價	一間房子	一五・〇〇圓	二〇・〇〇圓	五・〇〇圓	一三三・三%	
ア ン ペ ラ	一 枚	六・〇〇	一三・〇〇	七・〇〇	二一六・七%	
高 梁 米	一 斗	三・二〇	三・六〇	〇・四〇	一一二・五%	
小 米	一 斗	三・〇〇	四・二〇	一・二〇	一四〇・〇%	
包 子	一 斤	三・〇〇	三・五〇	〇・五〇	一一六・七%	
ソ ー ダ	一 斤	〇・〇六	〇・〇九	〇・〇三	一五〇・〇%	
白 麵	一 斤	〇・一二	〇・一五	〇・〇三	一二五・〇%	
猪 肉	一 斤	〇・三五	〇・四七	〇・一二	一三四・三%	
鹽	一 斤	〇・〇六	〇・〇六			
白 糖	一 斤	〇・一五	〇・三六	〇・二一	二四〇・〇%	
豆 油	一 斤	〇・一八	〇・二四	〇・〇六	一三三・二%	
花 且 呢	一 尺	〇・二六	〇・七〇	〇・四四	二六九・二%	
花 旗 布	一 尺	〇・二五	〇・六五	〇・四〇	二六〇・〇%	

備考	藍花旗布	棉花	綠	膠皮靴	鳥拉靴	サンツ	帽頭
	一尺	一斤	一足	一足	一足	一箇	一箇
	〇・二四圓	一・〇五	三・〇〇	〇・九〇	六・〇〇	三・六〇	一・五〇
	〇・五〇圓	二・二〇	八・〇〇	二・八〇	一三・〇〇	九・〇〇	二・五〇
	〇・二六圓	一・一五	五・〇〇	一・九〇	七・〇〇	五・四〇	一・〇〇
	二〇八・三%	一九二・四	二六六・七	三一・一	二一六・七	二五〇・〇	一六六・七

家計用品ノ價格ハ五月節、八月節、過年テ夫々異ナルモ本調査ニ於テハ區別シ得ナカツタ一言御斷リシテ置ク

即チ右表ノ範圍ニ於ケル家計用品ニ在リテハ穀類、調味料ハ何レモ五〇%以内ノ騰勢ニアルカ住居費タルアンペラヲ始メ被服類ニ至リテハ何レモ二倍以上ノ價格騰貴トナツテ居ル尤モ右ハ農家ニ就キ標本的ニ聽取シタモノテアルカラ何處迄正確テアルカハ別トシテモ一般ニ農家ハ現金テ買リ買ヒセル夫々ノ價格ハ割合ニヨク知悉シテ居ルノカ常テアルカラ大イナル間違ヒハナイト見テ蓋支ナイ此ノ結ハ縣城ニ於ケル夫レ等商品ノ小賣價格(商工公會發表)

(2)

(1) 買控へ

並其ノ騰貴率ト比へテ異ナリ、ヨリ高位ニアル從テ農民カ直接購
 入スル商品ノ價格カ幾何カ其ノ騰貴率如何ヲ見ルコトカ假令運
 賃等ヲ考慮ニ入レタトシテモ尙且夫レ以上ニ實際取引サレテ居ル
 ノテアルカラ縣城ニ於テ調査擔當商人ヲ指定シテ得タル結果コソ
 事實狀ニ反スル疑ナキヲ得ナイ故ニ寧ロ實狀ニ沿ツテ居ル譯テア
 ル一例ヲトル、煙草(ダブルクレーン)ノ如キ縣城テ一箇七錢テ
 アルカ農民カ縣城或ハ小舖等テ買フ場合ニハ一〇錢乃至一五錢ヲ
 要スル筆者カ小舖テ求メタ際ニモ一五錢テアツタシ又綏化縣城ノ
 各店共「煙草沒有」ト貼り出シテアルカ事實ハ然ラス地下ニ倍ク
 ツテ居ル兩人旅館等ニ蝨柑等ヲ賣リニ來ル者ヲ檢スレハ其ノ籠ノ
 底ニマキユリ、グツドクロツプ等ヲ忍ハセテ何レモ一箇二五
 錢ヲ要スル、專賣品トシテ定價賣サルヘキ商品テスラ斯如キ狀態
 テ堂々ト闇取引ヲ行使シテ居ル從テ斯カル闇取引カ呈示スル根拠
 ハ中央市場或ハ縣城ニ於ケル小賣相場ニハ何等反映シテコナイ一
 專カ萬事斯如クマシテ其ノ他ノ商品ニ於テオヤ
 價格高騰ニ對スル處置

家計用品ノ購買狀況並其ノ價格ニ關シテハ以上述へタトコロテ

アルカ此ノ價格騰貴ト農産物ノ價格安ニ刺戟セラレテ一般ニハ著シク節減セムトスル傾向ニアル既述ノ如ク本年度ノ家計用品購入額ヲ前年ニ比較スレハ富農ハ五〇%、中農ハ一五%何レモ増加シテ居ル然シ一般ノ状況ヨリスレハ前年ト同様カ或ハ夫レ以下ニアルコトハ推察ニ難クナイ此ノコトハ年紙質ノ支出ニ於テ明テアル即チ來年度正月用ノ品々ノ購入額ノ増加率ハ家計費全體ノ夫レニ比ヘテ同率カ若クハ低位ニアルコトハ本年度農家ノ現金収入カ相對的ニ減少シタコトヲ實證スルモノテ現在ノ生活程度ノヨリ以上ノ引キ下ケカ爲サレツアル事情ヲ汲ミ取り得ルト共ニ來年度ノ現金家計支出額ハ當然節減サレルモノト豫想スルコトカ出來ル

而シテ節約ノ部面ハ先ツ被服類ニアル候テアル即チ被服類ノ騰貴最甚シク且夫レカ家計費中ニ占ムル割合カ四〇・五〇%以上テアルコトカラ自然之ニ節約ノ手カサシノヘラレル譯テアル例、否山堡ノ富農ニ在リテハ兄弟四人カ各妻帯シ夫々子供ヲ有スルカ本年迄ハ毎年所要被服費トシテ四人カ四單位トナリ一單位ニ就キ年五〇〇圓(合計三〇〇〇圓)ヲ振り富テ又男兒八歳乃至一四歳八年一五圓、一五歳以上ハ三〇圓ヲ夫々支給シテ來

アルカ此ノ價格騰貴ト農産物ノ價格安ニ刺戟セラレテ一般ニハ著シク節減セムトスル傾向ニアル既述ノ如ク本年度ノ家計用品購入額ヲ前年ニ比較スレハ富農ハ五〇%、中農ハ一五%何レモ増加シテ居ル然シ一般ノ状況ヨリスレハ前年ト同様カ或ハ夫レ以下ニアルコトハ推察ニ難クナイ此ノコトハ年紙質ノ支出ニ於テ明テアル即チ來年度正月用ノ品々ノ購入額ノ増加率ハ家計費全體ノ夫レニ比ヘテ同率カ若クハ低位ニアルコトハ本年度農家ノ現金収入カ相對的ニ減少シタコトヲ實證スルモノテ現在ノ生活程度ノヨリ以上ノ引キ下ケカ爲サレツアル事情ヲ汲ミ取り得ルト共ニ來年度ノ現金家計支出額ハ當然節減サレルモノト豫想スルコトカ出來ル

タカ 年度ヨリハ一單位五〇〇圓ヲ相當減少スルト謂フカ如キ

(四) 供給ノ不圓滑ト消費ノ轉換並買ノ低下

供給ノ最不圓滑ナル物ハ石油、之ニ次テマツ子、棉布、小麦粉等
テアル殊ニ石油ハ殆ト得ラレナイ、ヨシ有ツタトシテモ公平ニ
分配スレハ恰モ燒ケ石ニ水ノ觀ヲ呈シ已ムナク中間ニ於テ使用
ニ堪ヘル範圍、限度テ分配サレテ居ル從テ燈火用トシテ石油ハ
望ミナク一方口一ソクハ高價テ不經濟ナ爲豆油ヲ使ヒ更ニ猪油
ヲ使用シテ居ル

石油一豆油一猪油

即チ商品タル石油ヲ廢シ豆油ヲ使ヒ更ニ自給品タル猪油ヲ使用
シテ物資缺乏ト價格高ニ對應シテ居ルノテアル又マツ子、棉布
ノ如キニ對シテハ極力買控ヘニ依ツテ居ルカ小麦粉ニ對シテハ
製造用具ヲ所有セル農家ハ買控ヘハ勿論ヤルケレ共自家テ製造
ヲ始メテ消費ノ轉換、自給化ヲ行ツテ居ル

次ニ注目スヘキコトハ商品ノ質ノ低下ニ依ル農家生活費ノ增高
テアル農家ニ就キ具體的ニ聽取セル結果ニ依レハ靴等ハ從來百
日持ツタモノカ今日テハ七、八十日約二〇一三〇%餘ノ質ノ低

以上安之冢計用品ノ價格高騰ニ對シテハ極力買控ヘト消費ノ轉換ニ依リ
 對應シ然モ一方ニ於テ買ノ低下ハ斯如キ自給化ノ傾向ヲ一層助長シツツ
 アル状態テアル更ニ雇農等ハ現金ヲ得タ勞賃收入ハ固ヨリ現物支給ノ大
 半ヲハ直ニ販賣シテヨリ高價ナ食料其ノ他ノ購入ル當テテ居ル状態テコ
 コニ農家生活ノ不安カ或生スル從テ吾々ハカカル生活ノ不安カ勞働能率
 ヲ削減シ勞働力再生産ノ機能ヲ阻害スル一ツノ要因ヲ見且其ノ影響ヲ恐
 ル

下ヲ來タシ衣服類等ニ在リテハ三〇―五〇%餘ノ質ノ惡化ヲ見
 セテ居ル甚シキニ至リテハヌフノシヤツハ一箇月シカ保テナイ
 カ純綿ノ花布テ作ツタモノハ優ニ一箇年ハ保持シ得ラレルト謂
 フ然シ乍ラ以上ノコトハ適小農、雇農等ニ在リテハ購入シ得ラ
 サル場合多キヲ以テ此ノ質ノ低下ニ就キ聽取シテモ「最近人々
 ハソウ謂フ風ニ謂ツテ居ルノヲ耳ニスルカ自分ハ貧シイノテ未
 タ實感スル迄ニ至ラナイ」ト謂フ農民モアル程ニテ如何ニ購入
 物價激騰ノ影響カ滲ミ込ムテ居ルカ層ヲ異ニスルニ從テ如何ナ
 ル差異カアルカハ此ノ一事ニ依リテ明瞭テアル

下ヲ來タシ衣服類等ニ在リテハ三〇―五〇%餘ノ質ノ惡化ヲ見
 セテ居ル甚シキニ至リテハヌフノシヤツハ一箇月シカ保テナイ
 カ純綿ノ花布テ作ツタモノハ優ニ一箇年ハ保持シ得ラレルト謂
 フ然シ乍ラ以上ノコトハ適小農、雇農等ニ在リテハ購入シ得ラ
 サル場合多キヲ以テ此ノ質ノ低下ニ就キ聽取シテモ「最近人々
 ハソウ謂フ風ニ謂ツテ居ルノヲ耳ニスルカ自分ハ貧シイノテ未
 タ實感スル迄ニ至ラナイ」ト謂フ農民モアル程ニテ如何ニ購入
 物價激騰ノ影響カ滲ミ込ムテ居ルカ層ヲ異ニスルニ從テ如何ナ
 ル差異カアルカハ此ノ一事ニ依リテ明瞭テアル

五

雇傭労働者ノ需給及勞賃騰貴ヘノ對應狀況
 (1) 雇傭労働者ノ需給

杏山堡テハ一般ニ日傭労働者ハ目下差程ノ不足ヲ告ケル迄ニハ至ラ
 ス、其ノ使役ニハ困難ヲ感シテ居ナイ様テアル。然乍ラ富農ハ他屯
 ヨリ多ク雇傭シ、中農ニアリテハ屯内ヨリ雇フコト多キ關係モアリ
 又前者ニアリテハ經濟力ノ豊富、大ナル支配力ニ職由シテ兎モ角不
 自由シナイト謂フカ、后者ニアリテハ經濟力ノ貧弱ト屯内農家ノ出
 稼等ノ事情カラ多少窮屈サヲ免レ得ナイ情勢ヲ看取スルコトカ出來ル
 尤モ呼蘭縣等ノ水災地帯ニ於テハ相當甚大ナル打撃ヲ被リ經營ニ支
 障ヲ生セル農家モアリテ雇傭ノ他屯ヘノ移動モ相當數ニ上ツテ居ル
 特殊地域モアル。又蔡家窩堡附近ニ於テハ材木伐採ノ爲出移スル者
 相當多ク例年労働者需要ノ最盛期ニ労働市場ニ集マル労働者ハ毎日
 二〇〇人以上テアツタニモ不尠ス本年ハ一二〇人位シカ集マツテ居
 ナイ等ノ事情ニ鑑ミ労働者ノ供給難ト勞賃高トヲ招來セル地域モア
 ル。此處ニ労働者需要ノ競合ヲ避ケル爲ノ調整策カ行ハレナケレハ
 ナラナイコトヲ痛感スル

次ニ年工ニ就テ。年工ハ其ノ賃銀カ康徳五年度ヲ基準トシテ決定サ
 レタ爲、本年契約ノ終了ヲ待ツテ他ニ轉出又ハ日工化セムトスル者

(2)

モアリ、年工労働者ノ減少カ豫想サレル。然乍ラ此ノコトハ自家
 働カ少ク扶養家族多キ農家ニ於テハ例ヘ安クトモ現物支給ノアル年
 工ヲ續ケサルヲ得ナイ事情モアリ一概ニハ謂ヘナイ。兎モ角多額ノ
 年工ヲ雇傭セル富農ノ意見ヲ徴シテモ、來年度ハ日工賃ニ追隨シ
 テ相當額ノ増給ヲ行フ意向アリ、二〇一三〇%方ハ増給サレル見込
 テアルカラ年工労働者ノ轉出傾向ヲ一應避ケルコトカ出來ルテアラ
 ウ。蔡家窩堡ニ於テハ矢張り前年ヲ基準トシテ決定シタルモ生活費
 ノ増昂ヲ斟酌シテ二〇一三〇%既ニ増給セル爲杏山堡ニ於ケルヨリ
 ハ高ク、從ツテ移動傾向ハ杏山堡ニ於ケル程ニハ現レテ居ナイ。
 雇傭労働者ノ賃銀
 先ツ日工賃ニ就テ。第十五表ニ見ラレル如ク日工賃ハ二五%乃
 至六七%ノ高騰ヲ示シ、就中除草賃銀ノ騰貴率最甚シク、刈麥子之
 ニ次キ高イ。然シ一日當賃銀ノ絕對額ハ刈麥子カ最大テアル。又蔡
 家窩堡ニ於テモ騰貴ノ様相ハ杏山堡ト大同小異テアルカ刈麥子ノ一
 日當賃銀ハ實ニ四圓ヲ算シ前年ノ倍額テアル

種別	杏	山	堡
	種別	年齡	期間
打頭的	四二歲	一一箇月半	現金
三板子	三五	九〇	現物
		大豆一晌	同上見積額
		高粱一晌	一三五

次二年工勞賃ニ就テ考察スル。先ツ之ヲ表示シヨウ
 (第十六表) 年工勞賃

打頭的		蔡家窩堡
康德五年	二五〇圓	
同六年	二七〇	
增減	二〇	
%	一八〇%	

備考	% 增減	同六年	康德五年	種地	杏
				〇・八〇	〇・八〇
	二五・〇	一・〇〇	〇・八〇	種地	山
	〇・二〇	一・〇〇	〇・八〇	鎔	堡
	一・〇〇	二・五〇	一・五〇	一回	蔡家窩堡
	一・〇〇	二・五〇	一・五〇	二回	
	一・〇〇	二・五〇	一・五〇	三回	
	一・〇〇	二・五〇	二・〇〇	刈麥子	
	〇・七〇	二・五〇	一・八〇	刈大秋	
	〇・五〇	一・五〇	一・〇〇	打場	
	〇・四〇	二・〇〇	一・六〇	鎔地	
	二〇〇・〇	四・〇〇	二・〇〇	刈麥子	
	〇・九〇	二・五〇	一・六〇	其ノ他	
	〇・二〇	一・〇〇	〇・八〇	打場	

(第十五表) 日工勞賃

右ハ杏山堡ノ富農ニ被備サレテ居ル年工ノ勞賃テアルカ、前述セル如ク年工勞賃ハ康徳五年度ヲ基準トシテ決定サレタ爲日工勞賃ニ比シ割安テ少クトモ二〇一三〇%増額ヲ見ル模様ニアル。假リニ三〇%増額シタトスレハ、右ノ打頭的ニ取ルト現在總額二一五圓ニ對シ六四圓五〇錢ノ増加テ二七九圓五〇錢（現物見積額ヲ本年ノ儘ニ計算セル場合）トナル。一般ニ被備者ハ現金ヲ割リ増サレル様希望シテ居ルカ結局現金、現物折半シテ増額サレルノテハナイカト推察サレル

蔡家窩堡ニ於テハ本年當初既ニ増額サレタ結果前年ニ比較シテ八%ノ騰貴ヲ示シテ居ル。其ノ増加率ハ低イカ、絶對額ハ前屯ノ夫レニ比ヘテ高ク然モ現金一本槍テ支給サレテ居ル、之ヲ以テ蔡家窩堡ハ杏山堡ニ比シテ夫レタケ勞働者需給ノ圓滑サヲ缺イテ居ル一ツノ證左ト見ルコトカ出來ヨウ

跟做的	三五	一一箇月半	九〇	大豆一晌	七五
半拉子	一六	〃	八〇		
更官兒	四三	〃	八〇		
太師夫	四三	〃	一三〇	大豆一晌	七五

備考
全部現金支給

(第十七表)

經營面積ト雇傭年工數

經營狀態	經營面積	雇傭年工數	家族員數
地主、自作	自作 一五〇畹 小作 一五〇畹	一八	二八人

(3)

勞賃騰貴ニ對スル處置

尙以上ニ附加シテ杏山堡ニ於ケル雇牛具ニ就キ見ルト播種ノミノ場合ハ畹當一四圓、全作業ノ場合ハ畹當三五圓ヲ要シ前年ニ比較スレハ恐ラク三〇%一四〇%騰貴シテ居ル模様テアル

杏山堡ノ富農ニアリテハ、勞賃ノ高騰ハ困ルコトハ困ルカ今ノ處餘裕アルヲ以テ概シテ苦痛ヲ感シナイト謂フ。然シ蔡家窩堡ノ富農ニアリテハ切實ニ苦痛ヲナメテ居ル之カ實際テ經營農家ハ何レモ勞賃ノ激騰ニ頭ヲ悩マシテ居ル。即チ北滿穀倉地帯ニアリテハ一〇畹餘ノ經營ニ於テモ二〇名乃至三〇名ノ雇傭勞働者ヲ必要トスルシ、年工ノ雇傭モ亦可成リニ多イ一等ノ事情ニ徴シテ。尤モコノコトハ自家勞働力ノ多少ト雇傭年工ノ種類、兼業ノ有無等々ニ依リ勿論異ルカ此處テハ斯カル意味ノ分析ハ行ハナイ。參考迄ニ經營面積ノ大小ト年工雇傭數ニ付表示スレハ次ノ如クテアル

事情斯如從テ出來得レハ雇傭勞働者ヲ減少シテ勞賃支拂額ヲ節減シ
 タイ念ハ誰シモ抱イテ居ルカ、現在ノ農耕方法カラスレハ除草回數
 ノ減少ヲ以テスル勞働者ノ減少ハ收穫高ニ影響ヲ及ホシ、本年ノ減
 少ハ次年度ノ雜草繁茂ヲ多カラシムルノ故ヲ以テ何レノ經營農家モ
 其ノ不可ヲ訴ヘル。然、乍ラ實際問題トシテハ勞働ノ粗放化、經營ノ
 縮少等ノ形ヲトツテ勞賃騰貴ニ即應スルモノト考ヘテ間違ハナイト
 思フ。從ツテスレツシヤ、ニ依ル脱穀等ノ如ク能率高キ機械、技術
 ノ採用ハ夫々ノ條件ニ依リテ異ナルケレトモ、一般ニ希望ノ大ナル
 モノカアル。然シ現時局ハ之ヲ許容セサル狀態ニアルヲ如何セン
 兎ニ角勞賃支出ノ遞減カ相當困難タトスレハ而モ一方ニ於テ農家現
 金收入ノ減少ハ此處ニ負債ニ依ル決濟ノ度合カ高マツテ來ル。杏山
 堡ニ於テ五百圓、千圓ノ負債ヲ有スル農家カアルカ、此ノ費途ハ大
 部分勞賃支拂ニ充テラレテ居ル

自作、小作	一六〇五畧	五〇畧	六六〇五畧	六	二三 (成男四)
地主、自作	三〇		三〇	四	一二 (成男三)
自作、小作	五〇二	九	一四〇二	三	五 (成男一)
小作		六	六	一 (猪管兒)	四 (成男一)

六

物價ノ變動ト農家經濟

(1) 主要販賣品價格及購買品價格ノ比較

先ツ經營農家(一三戸)ノ調査結果ヲ綜合スルニ販賣品及購買品ノ中主要ナモノニ就キ康徳五年ヨ一〇〇トセル康徳六年ノ價格指數ヲ求メル、元々此ノ價格指數ノ算定ニ當リテハ販賣品及購買品價格ノ夫夫力農業ノ收支ニ對シテ有スル重要度ヲ加味シテ比較サレナケレハナラナイカ此ノ點ハ暫クヲク、而シテ又農家ノ言ヲ其ノ儘信用スルコトニ疑義ハアルトシテモ一應ノ比較ヲ爲スコトハ確カニ無獻事テハナイ、然シ乍ラ我々ハ縣境ニ於テ實ニ不思議ナ情勢ヲ耳ニシタ、即チ緩化縣下ニ於テハ農産物ノ公定價格ト地場價格トハ各地同様ノ較差ヲ生シタルモ値カニ公定價格ヲ上廻リ地場價格以下ニ買付シタ様ナ氣配カアリ他縣ノ夫レニ比ヘテ低位ニアル、斯ク、如キ強制ニ依リ農家ノ手取金カ減少シタコトヲ思惟スルトキ宜敷究明ヲ要スル問題テアル

夫レハサテヲキ農産物ノ販賣品中大豆、小麥ハ兩年共二等品テアルニモ不拘、石當收入ハ前年ヨリモ減少シ高粱ハ約六%方増加シテ居ル、之ニ反シ農業經營用品並家計用品ノ價格ハ五〇%以上ノ激騰ヲ見セテ居ル、特ニ洋線、棉花、膠皮靴等ノ被服類ヲ始メ大車、鎌刀

販賣		購買	
品目	%	品目	%
大豆	九六〇・九	大車	一五三〇・八
高粱	一〇五〇・九	鎌刀	一七五〇・〇
小麥	八八〇・九	飼料(豆粕)	一一四〇・三
		アソペラ	二一六〇・七
		小米	一四〇〇・〇
		包子	一一六〇・七
		猪肉	一三四〇・三
		棉花	一九二〇・四
		洋線	二六六〇・七
		膠皮靴	三一〇〇・一

等ノ農具及アソペラ、小米ノ類ニ至ル迄何レモ販賣長産物價格ノ騰貴率以上ニ出テ此ノ間價格差ノ増幅ヲ露呈シ其ノ進展力農家ノ經濟ヲ制約シツツアル、然シ斯カル制約ハ富農ト中農或ハ雇農ト層ヲ異ニスルニ依リ其ノ間大小逕庭アルコト謂フ迄モナイ

(第一表) 主要販賣品及購買品價格指數ノ比較 (康徳五年一〇〇)

(2)

農家ノ現金收支

前項極メテ不完全乍ラ價格差ノ増幅ニ就キ概説シタカ次ニ現金收支ト
 階層別ノ異同關係ヲ事例的ニ考察シテ見ヨウ、即チ富農ニアリテハ
 農業以外ニ投資アリテカ收支ノ均衡ハ裕・完キヲ得テ居ル、然ルニ
 中小農ニアリテハ負債ト生活費ノ節減、犠牲ニ依テ均衡ヲ得テ居ル
 ヤニ考ヘラレル、先ツ二三ノ農家ニ就キ收支狀況ヲ概観スル

農 雇		農 中		農 富		收 入	支 出	差 引	負 債 備 考				
增減	康 德 五 年	增減	康 德 五 年	增減	康 德 五 年					(販賣勞賃)	勞 賃	稅 金	家 計
	二一五	△二九九	一、一二六	一、四二五	一、〇二四	一、六九二四	八、三四五	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇九四五	四、九五五	不明	不明
		三四八	一、四一六	一、〇六八	二、四〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇九四五	四、九五五	不明	不明
			二九〇	二九〇		二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇九四五	四、九五五	不明	不明
	(二二三)	五〇	三五〇	三〇〇	一、七〇〇	四、七〇〇	一、五〇四五	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇九四五	四、九五五	不明	不明
	(二二三)	三九八	二、〇五六	一、六五八	四、四〇〇	一、五〇四五	一、〇九四五	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇九四五	四、九五五	不明	不明
	(△八)	六九七	△九三〇	△二三三	△三、〇七六	一、八七九	一、〇九四五	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇九四五	四、九五五	不明	不明
		不明	一、〇〇〇	不明		〃	〃	〃	〃	〃	〃	不明	不明

括弧ハ無料
家賃ノ寺會
見積額ノ加
算セルモ、

(第一九表) 階層別農家ノ現金收支

備考 經營面積、家族員數年工數等 同上同様

(勞賃、税金家計支出)

家計		勞賃	
計		計	
中農 一二四・〇	富農 一三七・五	中農 一三二・六	富農 一四〇・三
		中農 一五六・七	
		中農 一一六・六	

(農産物販賣收入)

中農 七九・〇	富農 一〇六・四%
---------	-----------

(第二〇表) 農家現金收支、對前年比較 (康德五年一〇〇)

現金收入	現金支出	現金收支差額	對前年比較
中農	中農	中農	中農
富農	富農	富農	富農
計	計	計	計

右ニ明カナ如ク支出合計額ヲ前年ニ比較スレハ富農ハ三七。五%中
 農ハ二四%夫々増加シテ居ル、之ヲ收入ト對比スルナラハ結局收入
 ノ低キニ從テ收支ノ均衡ヲ阻害スルコトヨリ大ナルコトヲ知ル
 請フ迄モナク通常大豆、小麥等ハ販賣作物テアルカ包米、高粱、谷
 子等ハ氏食用作物テアル、即チ言葉ヲ換ヘテ謂ヘハ農家ノ大半ハ生
 産者テアルト同時ニ又購買者テモアル、雇農等ハ取得現物勞賃ノ八
 〇%乃至九〇%ハ直ニ販賣シテ食料、被服類ノ購入ニ充テル、又過
 小農ノ如キハ出廻期ニ自己ノ生産物ヲ販賣シテ端境期ニハヨリ高價
 ナ食料品ノ購入ヲ餘儀ナクセラレ勢ヒ兼業ニ生活維持ノ途ヲ見出サ
 ナケレハナラナクナル、故ニ之等貧農ニトツテ農産物價格ノ高價ハ
 生活苦ノ因トナルケレトモ之ニ對シテハ別ニ社會政策的ナ意圖ヲ充
 分考慮シテヤル必要カアル
 次ニ參考迄ニ康徳六年度ニ於ケル一雇農ノ現金收支ヲ表示シテヨク
 (第一一表)雇農ノ現金收支

主人	打頭的	現金	現物
長男	半拉子	五〇。〇〇	大豆 一畝三。七石
		一一〇。〇〇	(内三石販賣)
		合	残り飼料)
			子 〇。五
			二石 (食料)

收得現物 (大豆三石)

四五〇〇
二一五〇〇

(二) 支出

食料 (穀物、調味料)

一一二〇〇

被服類

七二〇〇

其他

一九〇〇

計

二〇三〇〇

(三) 差引

一一二〇〇

(家賃二〇圓ヲ加算スレハ八圓ノ缺損)

備考 1 家ハ無料借用 (時價二〇圓)

2 家族ハ九人、長男ハ病身

(3) 負債ノ様相

本年度杏山墨ニ於ケル農家ノ負債ハ概ネ勞賃支拂ノ爲ニ背負ツタモノテアル、而シテコノ借入先ハ殆ト金融合作社テ個人負債ハ極メテ少イ、蔡家箇墨ニ於テ現在二百圓ノ金ヲ貸與シ得ル能力アル農家ハ一戸タニナイト謂ハレテ居ル如ク、金融合作社ヨリノ借金ハ總シテ數人ノ連帶責任ヲ以テ借用シテ居ルカラ若誰カ一人返却シナイ場合ハ他ノ人々ニ迷惑ヲ掛ケル面子ノ問題モアリ且期限迄ニ返却シナケレハナラナイカラ農産物價格ノ低廉ヲ意識シツツモ之ヲ賣却シ

尙不足アルトキハ家畜、土地等ヲ賣却シテ其ノ不足ヲ補ハサルヲ
 得ナクナル、成ル程農民ハ金融合作社カ設立サレテ低利ニ融通シ
 テ奨レルコトハ從來ノ高利債ニ比シ甚有難イカ今日ノ如キ價格差
 増幅ノ影響大ナル場合ニ於テハ返濟期限ノ延長或ハ長期金融ノ方
 法ヲ講スル必要カアル、而シテ農民カ自己ノ負債ヲ返濟スル爲ニ
 如何ナル方法ヲ採ツタカヲ考察スルニ、蔡家窩堡ニ於ケル實例ニ
 依レハ大抵農産物ノ販賣收入ヲ以テ之ニ充テ其ノ割合ハ屯全體ヲ
 通シテ尠クトモ三分ノ一以上ヲ占メテ居ル模様テアル、即チ金融
 合作社ノ側カラ見レハ實ニ好成績ヲ擧ケテ居ルカ農民ノ側カラ見
 レハ債務者兼取立人ノ觀アリ、正ニ現下時局ニ職由スル矛盾ノ體
 得者ト稱スヘキテアル
 終リニ税金ノ問題ニ一言觸レテ置ク、税金ハ一箇月ノ未納毎ニ二
 ○錢ノ手数料ヲ徵收サレ、二箇年餘ノ未納トモナレハ財産カ處分
 サレル、農産物價格ノ相對的低廉ナル今日税金ノ支出ハ可成り苦
 痛ノヨウテモアルカ目下ノ處未納者ハ無イヨウニ見受ケラレタ

七 農業經營ノ動向

時局ノ進展ニ伴フ國民經濟ノ再編成ニ對處シテ農業經營モ亦改革ノ必要ニ迫ラレ其ノ動向乃至ハ農家經濟ノ實態ヲ明カニスルコトハ極メテ重要ナ問題テアル。然乍農業經營ハ地方ニ依リ自然的並社會的經濟的條件ノ差異ニ依リ其ノ態様ヲ異ニスルカラ一樣ニ論スル譯ニハユカナイ。我々ハ斯カル意圖ヲ體シテ農產物ノ價格低廉、農家購買品價格ノ激騰、勞賃騰貴等ニ規定セラレル農業經營ノ動向ヲ農產物ノ増(減)產若ハ他ヘノ轉換傾向ノ有無農業經營ノ粗放化或ハ經營規模ノ擴大傾向ノ有無等ノ諸點ヨリ考察スル

(1) 自然的災害ニ因ル不作

康德六年度ノ作物別喇當收量ヲ前年ニ比較シテ見ルト増加セルモノハ各農家共高粱ニシテ約二。三割增收ヲ得テ居ルカ其ノ他ノ作物ハ燕麥ヲ除ケハ何レモ全面的ニ減少トナツテ居ル。即チ調査農家ノ例ニ徴スレハ大豆ハ五斗乃至六斗、小麥ハ三斗乃至九斗ノ減少ヲ示シテ居ル。蓋シ本年ハ全面的ニ自然的災害ヲ受ケテ作柄不良ヲ招來シテ結果ニ外ナラナイ。從テ此ノ單位面積當收量ノ減少ハ販賣量ノ減少ヲ來タシ其ノ價格低廉ト相俟ツテ農家ノ現金收入ヲ縮減シ一入農家經濟ノ運行ヲ阻害シテ居ル。此ノコトハ又次項ニ述ヘル作付ノ轉

(2)

(1) 作物轉換ノ傾向
 屯ニ於ケル狀況

香山堡ニ於ケル經營農家ノ作物別耕作面積ヲ本年度ノ實際ト來年

作物名	富		農		中		農	
	康德五年	同六年	增	減	康德五年	同六年	增	減
大豆	五石五	四石九	△〇〇石六		五石〇	四石五	△〇〇石五	
小麥	二〇八	二〇五	△〇〇三		三〇〇	二〇一	△〇〇九	
高粱	六〇〇	七〇五	一〇五		五〇〇	六〇五	一〇五	
谷子	五〇〇	五〇〇			四〇五	四〇〇	△〇〇五	
糜子	三〇〇	三〇〇			二〇五	二〇〇	△〇〇五	
粘谷子					五〇〇	四〇五	△〇〇五	
稗子					三〇五	三〇〇	△〇〇五	
小豆					一〇〇	〇	△〇〇四	
燕麥					二〇〇	二〇五	〇	
線麻					二〇〇斤	二〇〇斤	〇	

(第二二表) 單位面積當收量
 換小作料ノ未納等ノ主要因トモナツテ來ル。

Handwritten text on the right page, likely a continuation of the report or a separate section. The text is dense and difficult to read due to fading and bleed-through from the reverse side of the page.

(一) 以下主要作物別ニ説明スル
大豆

大豆耕作農家ハ經營農家一三戸中一〇戸テ此ノ中作付ヲ減少スル農家ハ五戸(五一畧)増加スル農家ハ二戸(一一。二畧)テ結局四九。八畧ノ減少カ豫想サレ屯全體トシテハ三三。四%ノ減

作物	康徳六年		同 七年		實 増 數	減 %	備 考
	計	其 ノ 他	計	其 ノ 他			
大豆	一五三。八	一七。一	一〇四。〇	一〇。〇	△四九。八	六七。六	
小麥	一二八。〇	一五。〇	八四。八	一。〇	△四三。二	六六。三	
高粱	六七。五	一五。〇	一三四。〇	一。〇	六六。五	一九八。五	
谷子	五九。四	一五。〇	八六。五	一。〇	二七。五	一四五。六	
糜子	一五。〇	一五。〇	一六。〇	一。〇	一。〇	一〇六。七	
其他	一七。一	一七。一	一八。一	一。〇	一。〇	一〇五。八	
計	四四〇。四	一七。一	四四三。四	一。〇	三。〇		

(第二三表) 屯ニ於ケル作物ノ轉換
度作付豫想ト比較シテ見ルニ第二三表ノ如ク總作付面積ハ貸付地
回收ニ基ク三畧ノ増加ハアルカ大豆、小麥ノ作付面積ヲ減少シ、
高粱、谷子等ノ作付面積ハ増加ノ見込ミニマル

少トナル

(二) 小 麥

小麥耕作農家ハ一二戸ニテ此ノ中減少スル農家一〇戸、増減ナ
キ農家二戸テ結局本年ニ比ヘテ四三。二町(六六。三%)ノ減
少カ豫想サレル

(三) 高 粱

高粱ノ耕作農家ハ本年度ハ九戸、來年度ハ一戸増加シ一〇戸テ
アル。其ノ内譯ハ

増加スル農家	五戸	六四町
來年度新ニ作付スルモノ	二戸	三。五町
増減ナキモノ	二戸	
來年度作付セサルモノ	一戸	一町

ニシテ結局作付面積ハ六六。五町ヲ増加シ本年度ニ比較スレハ
總ニ倍ノ増加トナツテ居ル

(四) 谷 子

谷子ノ耕作農家ハ本年度九戸テ五九町、來年度ハ一三戸テ八六。五
町テアル此ノ内譯ハ増加スル農家四戸(二一町)新ニ作付ス
ルモノ四戸(六。五町)増減ナキモノ五戸テ結局戸數ニ於テ

康徳七年度ノ作付豫想ハ富農、中農ヲ間ハス大豆、小麥ノ作付面積ヲ減シテ高粱、谷子等ノ作付面積ヲ増加セムトスル氣配ニアル然シ乍此ノコトハ富農ト中農トテハ自ラ差異カアル即チ大豆ヲ例ニトレハ屯平均三三%ノ減少ニ對シ一五%ノ經營農家ハ五〇一六六%、六六。五%ノ經營ノ農家ハ四〇%、五八%ノ經營農家ハ三三%夫々減少シ減少率ハ經營面積ノ小トナルニツレテ少クナツテ居ル此ノコトハ究極ハ農家經濟力ノ強弱ニアルコト勿論テアルカ富農トナルニ從テ流通經濟ヘノ結合關係カヨリ緊密ナ爲テアル。又富農ニアリテハ作付ノ轉換モ可成自由ニ行ハレルノテアルカ然ラサル農家ニアリテハ經營面積モ少ク又輪作關係ニ制約サレルコトカ多イ。然シ我々ハ此ノ輪作關係ニ因ル作付轉換ノ困難モ決定的ナ障礙タトスル點ニ就テハ直ニ首肯シ難イ。又假ニ作付ノ轉換カ顯著ニ行ハレナイトシテモ之ヲ以テ當該農産物ノ生産量ニ増減ナシトハ考ヘルコトカ出來ナイ。問題ハ自ラ別テアル

最後ニ農産開發五箇年計畫ニ基ク作物特ニ亞麻、甜菜等ニ關シテ農民ハ其ノ割當強制ニ依リ農業經營乃至ハ農家經濟ノ部面ニ影響ヲ受ケルコト多ク「作リタクナイカ命令タカラ止ムヲ得ス栽培スル」ト謂フ考ヘヲ持ツ者多ク不作ニ對スル補償ヲ冀求シテ居ルコ

計	牛具	種子費	工賃	地租、小作料		備考
				小麥	大豆	
七〇〇〇〇	一八〇〇〇	二〇〇〇〇	二四〇五〇	八〇二〇	八〇二〇	
五六〇〇〇	一五〇〇〇	五〇〇〇〇	二八〇〇〇	八〇二〇		

(第二五表)
生産費

(3) トヲ一言附加シテ置ク
農業經營ヘノ影響ト其ノ動キ
物價高カ農業經營ニ如何ナル變化ヲモタラシタカクニ就テハ上述シ
來タレル諸影響、對策ノ中テ屬ル所カアツタカ一應概括シテ其ノ間
ノ動キヲ考察スル
先ツ康徳六年度ニ於ケル大豆、小麥ノ生産費ト收入關係ヲ一瞥スル
此ノ資料ハ杏山堡ニ於テハ得ラレナカツタノテ協和會カ緩化縣下頭
道溝甲ニ於テ調査セル小作農ノ事例ヲ便宜拜借スル

(二) 收入

大豆	小麥	數量	單位	價	格	差	引
五〇〇〇	二〇〇〇	石	圓	四〇〇	〇	△三〇	七〇
一五〇〇	一五〇〇	圓	〇	〇	〇	一九	〇〇

備考

- 1 以上計算ハ畝ヲ單位トス石數ハ舊石
- 2 地租ハ攤派、工賃ハ雇農費、牛具ハ馬、太車、農具
運搬費等、自家勞力ハ計上セス
- 3 泉直平氏綏化縣下ニ於ケル本年度水害對策ト其ノ動
向(滿洲評論第一七卷第二五號二九頁)
- 4 尙右計算ニ於テ小麥ノ生産費一一〇圓七〇、大豆九
六圓二〇ト算出シテ夫々七〇圓七〇、二一圓二〇ノ缺
損ト表示シテアルカ各費用ヲ合計スレハ前記ノ數字ト
ナル。念ノ爲ニ斷ツテ置ク

右ニ表示セル數字ノ正否ハ別トシテ本年度ノ大豆作、小麥作カ自
然的災害ニ依リ受ケタ打擊ノ大ナルコトヲ知ルコトカ出來ル杏山
堡テハ畝當一〇圓乃至二〇圓ノ缺損ヲ被ツタ農家モアリ又蔡家窩
堡ニ於テハ小麥ノ畝當雇傭勞賃ハ前年ノ三〇圓カ四〇圓ヲ要シ一

般ニ其ノ成績不良テアル

扱テ本年度ノ自然的災害ニ依ル不作ト農産物ノ價格安、農家必需
品價格ノ激騰等カラ農業經營部面ニ於ケル影響ト動キヲ見ヨウ
(一) 新開墾等ニ依ル耕地ノ増加又廢耕地ノ成生。今ノ所新開墾ニ
アル耕地面積ノ擴大ハタク經營ノ縮少ニ依ル廢耕地ノ出來ル可
能性ハ若干アル

(二) 地主等ノ自作農化、否山堡ニ於テ前年貸付地ヲ本年自作セル
農家カ一戸アツタカ之ハ自家勞働力ノ増加ト小作地ノ返還ト一
致シタ結果テアル

(三) 勞賃高ニ因ル農業經營ノ廢止又ハ經營ヘノ支障。此ノ點ハ既
ニ述ヘタ所テアルカ勞賃高騰ハ農家ニ最大ノ苦痛ヲ與ヘ殊ニ自
家勞働力少キ經營農家ニアリテハ自作農ヨリ小作農ヘ、小作農
ヨリ雇農ヘ轉落、轉出ニ依ル農業經營ノ中止ヲ餘儀ナクサレタ
農家(蔡家衙堡)モ一、二戸アル又經營ヲ中止スルニ至ラスタ
モ農業經營ノ連營ニ支障ヲ生セル農家ハ經營農家ノ何レヲ問ハ
ス見ラレル所テアル

而シテ勞賃高ヲ含ム一般物價高ノ影響ヲ受ケテ農業經營力集約
化ニシテ粗放化スルカニ就テハ伊ニ斷定シ得ナイケレトモ現狀
カラ推察セハ自家食料、飼料ニ使ハルヨリ然ル作物ニ偏奇シ其ノ

他ノ作物ニ對スル粗放化ノ傾向ハ作物轉換ノ模様除草回數ノ減少、耕地生成ノ可能性等カラ察知スルコトカ出來ル

(四) 農業經營ノ自給化即チ既述ノ如ク購入豆粕ノ節減ニヨリ大豆飼料化ノ増大、小麥粉ノ自家製造開始等ニ依テ除々ニ自給化的色彩カ濃厚ニナリツツアル

(五) 經營規模擴大化ノ間驛、杏山堡ニ於テハ二〇畧ノ小作農家カ分散セル小作地ヲ返還シテ相當集團セル土地(五〇畧)ノ小作ニ擴大シタ農家カ一戸アル。又小作地ヲ返還セル農家ノ存在並ニ土地移動ノキサシ等々カラ綜合スレハ富農等ヘノ土地ノ集中及經營ノ集中ニ依ル經營規模ノ擴大化ハ諸條件ノ鈔綜ニ依リテ異ルカ若干其ノ傾向アルト見テ差支ナイヨウテアル。然シ此ノ經營ノ集中ハ飽ク迄土地集中ノ前提テアリ一方經營面積ノ縮少、廢耕地ノ生成トハ自ラ意義ヲ異ニシテ居ルコト謂フ迄モナイ

年工ヨリ日工へノ轉出、經營規模ノ集中擴大化等等ノ諸事象ニ鑑ミル
 ナラハ必然的ニ土地所有ニ移動ヲ生セシムル要素カ醸成サレ從テ土地
 所有ノ移動カ行ハレルニ至ル而シテ移動セル土地カトノ方面ニ集マル
 カト謂フト富有ナ自作農、大地主等ニ集中セラレルトハ推察ニ難ク
 ナイ杏山堡ノ富農ハ本年三小作人ヨリ小作地返還ノ申出ヲ受ケ其ノ處
 置ニ就テハ目下考慮中ナルモ適當ナ小作人アラハ之レニ貸付ケ然ラサ
 レハ之レヲ自作スル趣キニテ經營集中ノ一步前ノ現象ヲ露呈シテ居ル
 (第二七表) 小作料

上地	康徳五年	同六年	増減	%	備考
二、一石	三、〇石	△〇、一石	九五。二	杏山堡(大豆、高粱、谷子)	

又小作料ニ就テ見ルニ右表ノ如ク地價同様若干低下ノ傾キカアル
 杏山堡ノ例テハ前年ノ三、一石ヨリ本年ハ一斗減ノ二石トナツテ居ル而
 シテ來年度ノ小作料ニ就テ聽取スルニ杏山堡テハ本年同様二石ノ豫定
 テアルカ察家~~爲~~堡ニテハ之レヨリ若干減額スル氣配カアル現下ノ物價
 高ト高率小作料ニ依テ醸成サレル農家生活ノ動搖ハ右述ノ如ク小作農
 ノ雇農へノ轉落現象ニヨリ明ニツカミ得ラレル更ニ注目スヘキ點ハ本

年度ノ小作料ノ未納農家カ相當ア、トトク山嶺ノ富貴ノハ本年度受
 納スヘキ筈ノ小作料ノ二〇%カ未納ノ状態ヲア、又六〇%ノ小作農家
 ニ於テハ大豆、高粱ハ完納シタカ谷子ハ三五%未納ノ者居ナイ茲ニ
 於テ所謂小作爭議ノ如キカ豫想セラレケレトモ斯様ナ氣配ハ目下ノ
 處ナク只未納小作料ヲ來年度ノ增收ニ期待シテ完納スルカ或ハ減免ヲ
 受ケルカニ就テハ目下個人的ニ地主ト折衝中ア何レ決定スルコトト思
 フカ地主等ノ意見ニ徵スレハ大體後者ニオチツクモノト考ハラレル
 最後ニ小作形態ノ變化テアルカ杏山堡ニ於テハ金納ハ殆トナク多クハ
 定額物納小作テ左程變化ノ様相ハ見受ケラレナイ然ルニ察家窩堡ニ於
 テハ康德五年度金納小作二戸アリシモ本年ハ全然ナクナリ大部分ハ定
 額物納小作テアツタカ本年ハ其ノ九〇%迄分益的小作(四分六一)ニ變
 ツテ居ル
 以上簡單乍ラ土地及小作關係ニ及ホセル物價高ノ影響ニ就テ考察シタカ
 要スルニ所謂農業生産力ヲ規定スル基本線タル土地問題ヲ纏リ農村内
 部ニ於ケル階層分化ヲ除クニ促進セシメツツア、トトク及ヒ之レカ解決
 ナクシテハ農業生産力ノ維持發展、農家生活ノ安定ヲ期スルコトト困
 難ナルコトヲ痛感スル

年度ノ小作料ノ未納農家カ相當ア、トトク山嶺ノ富貴ノハ本年度受
 納スヘキ筈ノ小作料ノ二〇%カ未納ノ状態ヲア、又六〇%ノ小作農家
 ニ於テハ大豆、高粱ハ完納シタカ谷子ハ三五%未納ノ者居ナイ茲ニ
 於テ所謂小作爭議ノ如キカ豫想セラレケレトモ斯様ナ氣配ハ目下ノ
 處ナク只未納小作料ヲ來年度ノ增收ニ期待シテ完納スルカ或ハ減免ヲ
 受ケルカニ就テハ目下個人的ニ地主ト折衝中ア何レ決定スルコトト思
 フカ地主等ノ意見ニ徵スレハ大體後者ニオチツクモノト考ハラレル
 最後ニ小作形態ノ變化テアルカ杏山堡ニ於テハ金納ハ殆トナク多クハ
 定額物納小作テ左程變化ノ様相ハ見受ケラレナイ然ルニ察家窩堡ニ於
 テハ康德五年度金納小作二戸アリシモ本年ハ全然ナクナリ大部分ハ定
 額物納小作テアツタカ本年ハ其ノ九〇%迄分益的小作(四分六一)ニ變
 ツテ居ル
 以上簡單乍ラ土地及小作關係ニ及ホセル物價高ノ影響ニ就テ考察シタカ
 要スルニ所謂農業生産力ヲ規定スル基本線タル土地問題ヲ纏リ農村内
 部ニ於ケル階層分化ヲ除クニ促進セシメツツア、トトク及ヒ之レカ解決
 ナクシテハ農業生産力ノ維持發展、農家生活ノ安定ヲ期スルコトト困
 難ナルコトヲ痛感スル



100-100-100